

遊ぶテーブル はるばも

② ラインフレーム

プレイ人数：1～4人 対象年齢：8歳以上 プレイ時間：15分

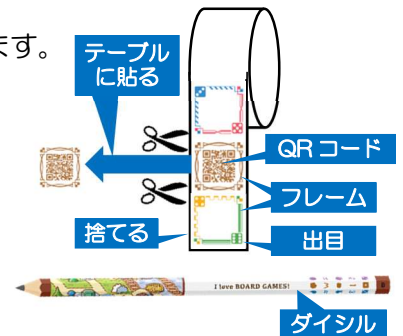
ゲームの概要

〈ラインフレーム〉は、テーブルに貼り付けたテープ（フレーム）に数値を書き込むゲームです。
1人用に適したゲームですが、テープを持ち寄ることで複数人でも遊ぶことができます。

最初に1人用のルールを説明します。複数人用のルールは後述します。

ゲームの準備

- ① QRコードが描かれたフレーム（枠）が初めて出るまでテープを伸ばします。
※テープには、フレームが並べられています。
※フレームは、1つまたは2つの出目を有しています。
- ② QRコードが描かれたフレームだけを切りとり、テーブルに貼ります。
※数値を書き込みやすいよう、テーブルに直接貼るのをおすすめします。
- ③ 〈ダイシル〉を用意します。または、筆記具とサイコロを用意します。

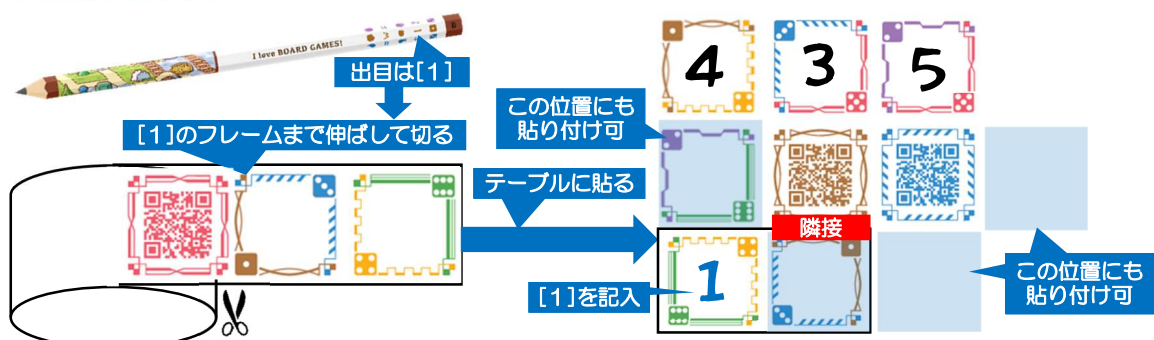


ゲームの進行

まず、出目を決めます。ダイシル（またはサイコロ）を転がします（振ります）。
ゲーム開始時（ゲーム準備の直後）に限り、1回だけダイシルの振り直しができます。
それ以降は、貼られたフレームに「×」を書くたびに、何度でもダイシルの振り直しができます。



次に、テープを貼ります。決めた出目が初めて出てくるまでテープを伸ばして切ります。
※出目の並び順は、QRコードが2つ出るまでの分を、テープを伸ばしていつでも確認できます。
切り取ったテープをQRコードが描かれたフレームに隣接するよう貼ります。
テープを貼る際に、何も描かれていない空のフレームの上に新たなフレーム（テープ）を重ね貼りできます。
※QRコードや（後述する）数字および×が描かれているフレームの上には重ねられません。
最後に、数値を書きます。今貼ったテープからフレームを1つ選び、その中に出目と等しい数値を書きます。



以上の（出目を決める・テープを貼る・数値を書く）行動をゲーム終了まで繰り返します。

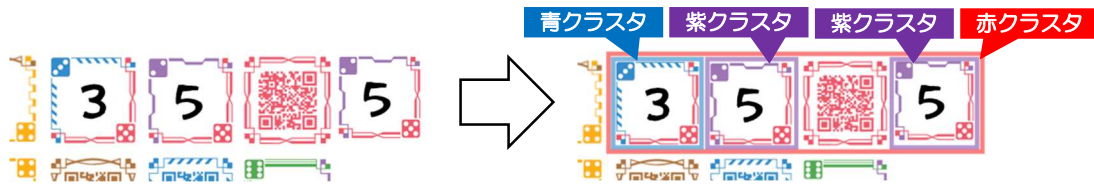
ゲームの終了

QRコードが7つ貼られたら、フレームに数値を書いた後にゲームが終了し、得点計算に移ります。

まず、並んだフレームを色ごとに分けます。

同色の（共通の色を有する）フレームが1つ以上集まったクラスタ（集合）を確認します。

※多くのフレームは2つの色を有しているため、異なる色のクラスタが重複することになります。



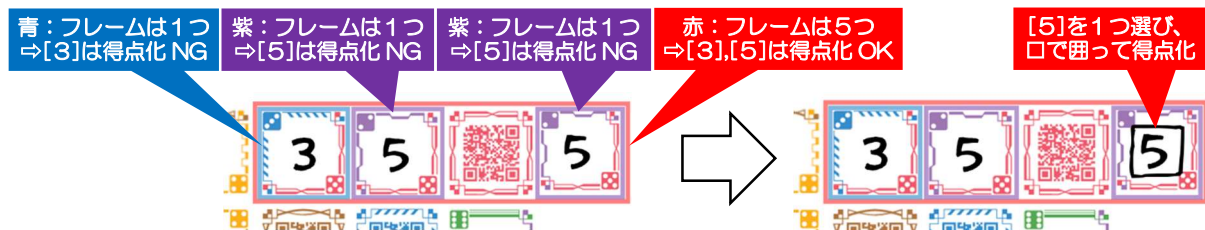
次に、数値を得点化します。

各クラスタの中に書かれた数値のうち1つだけを選び、これを口（四角）で囲って得点化します。

得点化できる数値は、[同色のクラスタを成すフレームの数] 以下でなければいけません。

QRコードが描かれたフレームは、同色のフレーム2つ分として数えます。

※フレームが1つだけでもクラスタとしてみなすので、数値[1]は必ず得点化できます。




1つの同色のクラスタを、複数のクラスタに分割してはいけません。

また、既に得点化した（口で囲った）数値を、（別のクラスタにて）再び得点化することはできません。

最後に、得点を合計して最終得点とします。

※得点化しなかった（口で囲わなかった）数値は全て0点です。

得点計算の例
(合計23点)



※得点化できる数値を含むクラスタのみを枠で表現しています
※得点化した数値をクラスタと同じ色で表現しています

1人で遊ぶ際はスコアアタックとなります。まず20点を、次に25点を、最後は30点を目指しましょう。

複数人用のルール

複数人用のルールでは、1人用のルールから以下の点が変更されます。

【ゲームの準備】

- 全員がそれぞれ、自分のテープを準備します。ダイシルは1本を全員で共有します。
- 全員がそれぞれ、自分の手元に1つのQRコードを貼り付けます。
- 最初にダイシルを振る人（スタートプレイヤー）を、適当な方法で決めます。

【ゲームの進行】

- ダイシルを振る人だけが出目を決めることができます。
- ダイシルの振り直しの判断も、その人だけができます。振り直す場合は、その人だけが×を書きます。
- 決まった出目に応じて、全員が自分のテープを貼り付けて、数値を書きます。
- ダイシルを振った人の左隣の人が、次にダイシルを振る人になります。

【ゲームの終了】

- QRコードが7つ以上貼られたら、ゲーム終了の合図となります。
- 合図が出たら、スタートプレイヤーが再びダイシルを受け取る直前までゲームを続けます。
- 最終得点が最も高い人が勝者です。
- 最も高い人が複数いる場合、×の数が少ない方が勝者です。それも同じ場合は引き分けです。

ゲームに関するご質問やご感想は、info@fudacoma.jp までお願いいたします。

ゲームデザイン：沢口游祐 アートワーク：たかみまこと

テストプレイヤー：ゆきこ、名古屋テストプレイ会の皆さん